

第 1 回果樹部会を踏まえて 御議論いただきたい事項

令和 6 年12月
農林水産省



1	気候変動への対応	・ ・ ・ ・ ・	2
2	地域を支える付加価値の高い 果樹農業の取組について	・ ・ ・ ・ ・	4

1-1. 気候変動への対応（高温等による被害）

- 地球温暖化が進行する中、高温等の影響でうんしゅうみかんやりんごの日焼け等の障害が発生。果樹は永年性作物であり、高温等の影響は当該年度のみならず、翌年度以降の長期に及ぶことを踏まえた対策が必要。
- 令和6年は夏の高温の影響により、みかん・りんご・かき等で日焼けが発生し、なしでは「みつ症」が発生。おうとうでは「双子果」や障害果（過熟果）の発生が増加。また、秋～冬にかけての高温により、みかんの浮き皮やうめの不完全花の発生が増加。

令和6年産の作柄及び高温等による被害（令和6年11月時点） ※卸売数量は、日園連調べ。平年は過去6か年平均

うんしゅうみかん



- 夏の高温により、果実の日焼けが発生。
- 秋季の高温・多雨により浮き皮が発生。
- 令和6年産卸売数量は、平年より3割減少。

りんご



- 夏の高温により、果実の日焼けが発生。
- 令和6年産卸売数量は、平年より1割減少。

なし



- 夏の高温・乾燥により、果肉の一部が水浸状となる「みつ症」が発生。
- 令和6年産卸売数量は平年並みであったものの、晩生品種を中心に品質が低下。

かき



- 夏の高温により、果実の日焼けが発生。
- 令和6年産卸売数量は、平年より1割減少。

うめ



- 開花前の冬季の高温により開花期が大幅に前進し、めしべの発達が不十分なうちに開花（不完全花）したため、着果数が減少。
- 令和6年産卸売数量は、平年より5割減少。

おうとう



- 令和5年夏の高温の影響により、めしべが2つに分かれ、実が2つくっついた「双子果」の発生が増加。
- 収穫期の6月中旬の高温により、障害果（過熟果等）の発生が増加。
- 令和6年産卸売数量は、平年より5割減少。

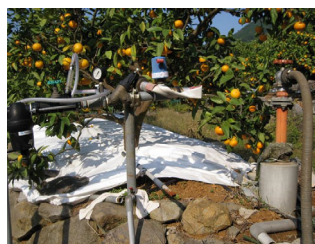
1-2. 気候変動への対応（対策）

- 夏季の高温をはじめとする気候変動への対策として、産地では①遮光等の適応技術や、適正水管理等の基本技術の徹底、②高温リスクを分散・回避する品種構成・栽培方法の見直し、③温暖化に適応した品目への転換等の取組が検討されている状況。
- 今後、①適応技術の導入推進、②生産者（産地）が品種構成・栽培方法を判断できる基準の設定、③温暖化に対応した戦略的な産地育成が必要ではないか。また、高温に対応する新技術・新品種の開発についても推進することが必要ではないか。

① 適応技術・基本技術の徹底



遮光ネット

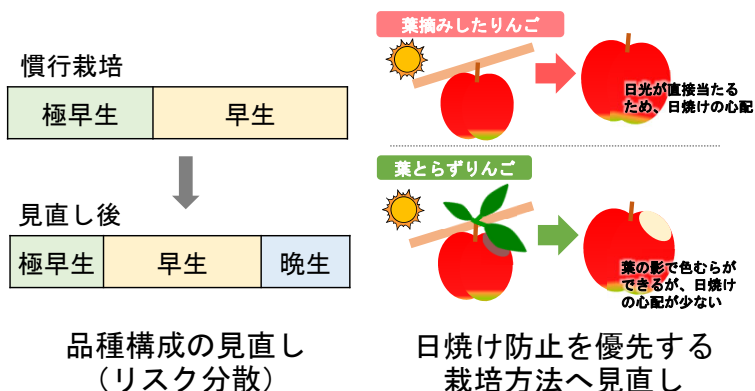


マルドリ方式

- 直射日光を遮断するための遮光ネットの設置
- マルドリ方式（マルチ、かん水設備の組合せ）による適正水分・施肥管理

ネットやマルチ・かん水設備、細霧冷房機等の高温対策に資する資機材の導入支援
⇒令和6年度補正予算で措置

② 品種構成・栽培方法の見直し



- リスク分散のため、収穫時期の異なる品種への転換等の品種構成の見直し
- 着色のための葉摘み作業をやめて葉を残すことで日焼けを防止する「葉とらずりんご」など、栽培方法の見直し

生産者（産地）が判断できる基準の設定

③ 品目の転換



パッションフルーツ



アボカド

- 温暖化に適応した熱帯果樹等への品目の転換
- 海外への輸出も見据えた地域を代表する逸品の創出

温暖化に対応した戦略的な産地育成の推進

更なる新技術・新品種の開発を推進

2-1. 地域を支える付加価値の高い果樹農業の取組について①

- 果樹の生産増大に向けて、園地の集積・集約化や基盤整備を進めるとともに、省力樹形等の導入、スマート農業技術・省力化品種等の開発・導入を強力に進め、生産基盤の強化を加速化することが必要。
- 併せて、農業という枠組だけでは労働力が限られる中、地域を支える基幹産業として、輸出や加工等の関連産業への波及、雇用創出、地域の活性化といった果樹農業の付加価値を高めていく取組の推進も重要ではないか。

果樹農業政策の大きな柱（第1回部会の議論）

果樹農業は、現在のペースで担い手の減少が続けば、多くの産地が消滅に向かうおそれ。



担い手を確保し、産地を維持して、需要に応じていくため、

- ① 基盤整備
- ② 省力樹形等への改植・新植
- ③ スマート機械の開発・導入

を集中的に進め、生産基盤の強化を加速化することが必要ではないか。



地域を支える果樹農業

地域を支える果樹農業の衰退は、地域の衰退につながるおそれ。



農業という枠組だけでは労働力が限られる中、

- ① 輸出や加工等の関連産業
- ② 定年者等の地域住民、交流人口

を呼び込み、果樹農業の地域の基幹産業としての付加価値を高めていく取組の推進も重要ではないか。

【付加価値の例】

- ① 収量、収益性の高い産品の創出
- ② 地域にある労働力の活用や雇用の創出
- ③ 遊休地の活用、関連産業への波及など

2-2. 地域を支える付加価値の高い果樹農業の取組について②

大規模効率生産・流通による生産・販売拡大

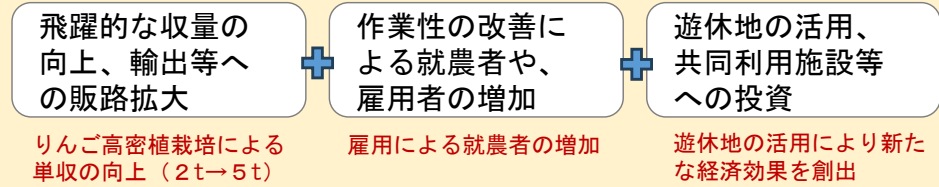
省力樹形や機械作業体系を導入した生産性の高い果樹農業を実現し、輸出等新たな需要へ販路を拡大する取組



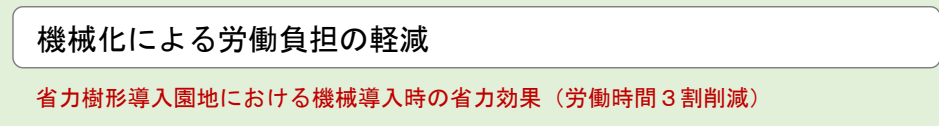
【生産・流通・販売の特徴】

生産	流通	販売
大区画化、省力樹形や機械作業体系の導入	効率的な選果機の導入	輸出等新たな需要への販売

付加価値



労働量



- 大区画で省力樹形や機械作業体系を導入することで、飛躍的な収量の向上が可能
- 遊休地が活用され大規模経営が出現することにより、地域に就農者、雇用を創出、設備投資を促進
- 農業従事者一人当たりが創出する付加価値の増加

合理化を徹底した大規模加工専用園地

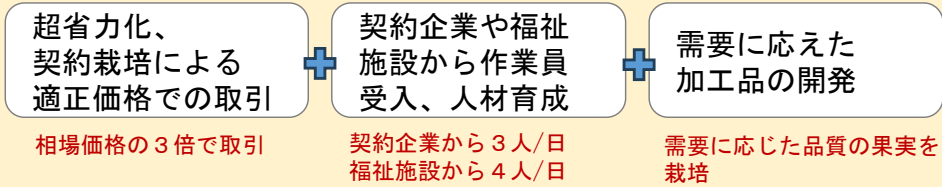
徹底した合理化、超省力化や適正取引価格により加工専用果実の生産を実現するとともに、加工業者等から作業員を受け入れる取組



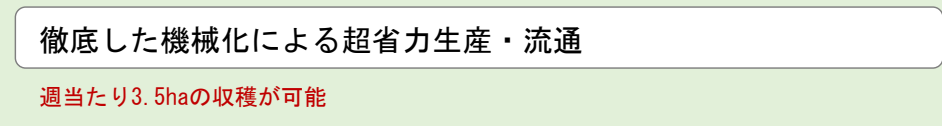
【生産・流通・販売の特徴】

生産	流通	販売
加工専用、徹底した機械化による超省力化、面積拡大	加工業者へ契約出荷	品質に合わせた適正価格での販売

付加価値



労働量



- 機械作業を前提とした園地作りによる大規模化、徹底した機械化による超省力化により、従業員一人当たりの生産増加
- 地元加工業者へ契約出荷を行い、品質に合わせた適正価格で取引することで加工原料用果実に特化した生産を実現
- 契約企業や福祉施設等からの作業員を受入

2-3. 地域を支える付加価値の高い果樹農業の取組について③

加工原材料を必要とする食品企業からの参入

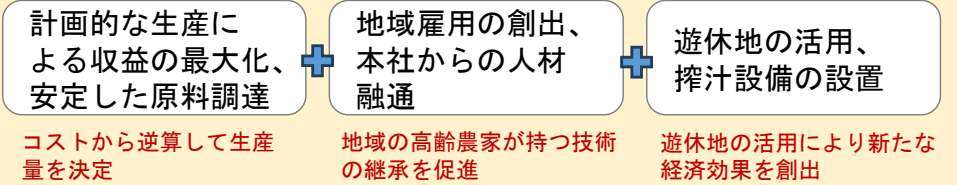
加工原材料を必要とする食品企業の参入により、原材料の安定調達や地域内外の人材活用など、地域経済の活性化をもたらす取組



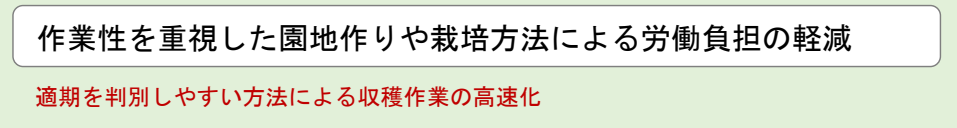
【生産・流通・販売の特徴】

生産	流通	販売
作業性を重視した園地作りによる省力化	ほぼ全量を自社工場で加工	自社が持つ従来の販売ルートでの販売

付加価値



労働量



- 遊休地が活用され大規模経営が出現することにより、地域に就農者、雇用を創出、設備投資を促進
- 販売までの出口を見据えた効率的な生産により収益を最大化
- せん定など、技術を有する地域の高齢農家を雇用することで、本社から派遣された若手社員への技術継承を促進

高収益加工品を軸とした付加価値向上の取組

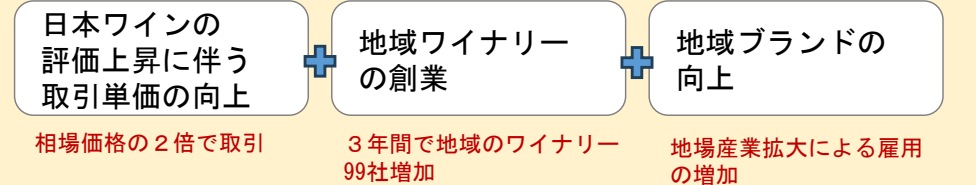
日本ワインの評価の高まりを受けた醸造用ぶどうの価格向上による高単価取引、粗放栽培による経営面積の拡大や離農園地の継承等の取組



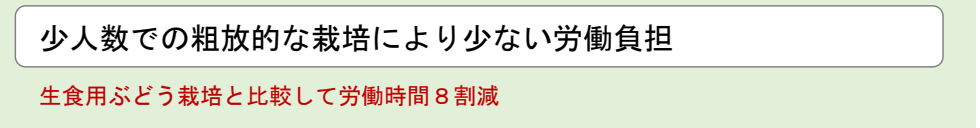
【生産・流通・販売の特徴】

生産	流通	販売
粗放栽培による省力化、面積拡大	地域のワイナリーで醸造	高単価ワインの販売・輸出

付加価値



労働量



- 日本ワインの評価の高まりにより、醸造用ぶどうも高単価で取引
- 粗放栽培が可能で、栽培面積の拡大や離農園地の継承に繋がっている
- ワイン醸造を地域のワイナリーに委託し、ブランド化して販売

2-4. 地域を支える付加価値の高い果樹農業の取組について④

中山間地域における地場産業の創出（山椒）

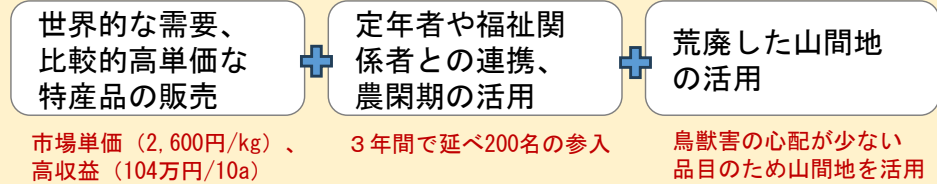
鳥獣被害の心配が少なく作業も軽労な山椒等の栽培により、山間部において他樹種栽培との併用や定年者など多様な人材を活用する取組



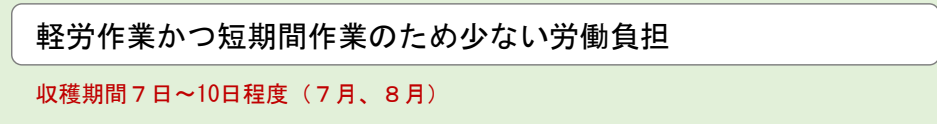
【生産・流通・販売の特徴】

生産	生産・流通	販売
軽労で作業負担の少ない地域特産品の生産	定年を迎えた地域住民など幅広い参画	直売や市場出荷のほか、大手食品会社への販売

付加価値



労働量



- 鳥獣被害の心配が少なく需要の高い「山椒」を山間部の特産品と位置付け、高単価で取引（海外展開も視野）
- 果実重量が小さく、また、収穫期以外の管理負担が少ないため、他樹種栽培や他産業との複合経営や、多様な人材の活用が可能
- 地域全体に付加価値が裨益

島しょ部における地場産業の創出（柑橘類）

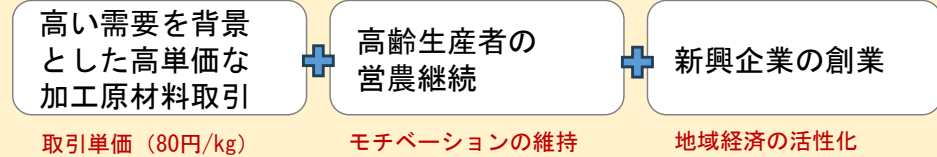
柑橘類等を原材料とした地場商品の開発により、高齢農家の営農意欲の継続や新興企業の創出など地域経済の活性化をもたらす加工仕向けの栽培を中心とした取組



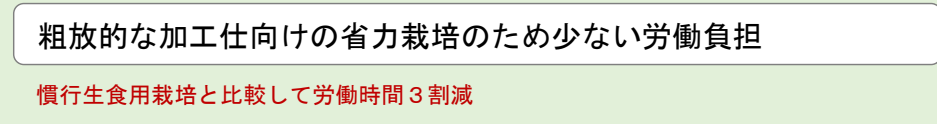
【生産・流通・販売の特徴】

生産	流通	販売
粗放的な加工仕向けの省力栽培	地場の食品加工企業への全量委託	突き抜けた地場商品の開発・販売

付加価値



労働量



- 地場の食品加工企業が柑橘類を原材料とした突き抜けた商品（はっさくゼリー等）を開発
- 需要が高く、加工原料でも高く取引される上に、粗放的な栽培が可能で高齢生産者の営農継続が可能
- 雇用も創出され、地域経済が活性化